

沖縄県全域向けとなるサトウキビ新品種候補系統「RK97-14」の特性

○下地 格・伊禮 信・出花幸之介・比屋根真一・仲宗根弘晃・大城良計
(沖縄農研)

【目的】

沖縄県では、サトウキビ生産者の担い手が減少し、高齢化が進んでいる。近年のサトウキビの収穫面積は横ばいで推移しているものの、平均単収は漸減しており、生産量は長期的な減少傾向にある。また、近年は天候不順や台風災害等により不作が続いている。このような背景から生産現場では、サトウキビ産業の活性化に寄与する安定して多収量な品種が求められている。

そこで、優れた発芽性や茎の伸長性等の安定生産に欠かせない特性を有し、多収が得られる品種の育成を目的に選抜試験を行い、「RK97-14」を育成した。本報では「RK97-14」の育成経過および特性について報告する。

【育成経過】

「RK97-14」は、多収で病害抵抗性に優れる「F172」を種子親にし、耐倒伏性や脱葉性に優れる「RF79-247」を花粉親に用いて1992年に交配をおこない、1997年に実生選抜試験に供試して以降、発芽性や高糖性、多収性を重視して選抜し、2000年に系統名「RK97-14」を付与した。

2001年に系統適応性検定試験に供試した。2004年から、生産力検定に移行するとともに、県内各地で奨励品種決定調査および現地適応性検定試験を実施し、各地における適応性を検定してきた。2014年に沖縄県全域向けの奨励品種候補として内定された。

【特性概要】

- 1) 発芽性は「NiF8」と同程度に優れる。
- 2) 初期伸長性は「NiF8」より優れ、登熟性は「NiF8」と同程度の早期高糖性である。
- 3) 1茎が長く、太いため、1茎重が「NiF8」よりも重い。
- 4) 原料茎重は、3作型で「NiF8」より重く、可製糖量も同様に多い(表)。
- 5) 現地試験においても「RK97-14」の可製糖量は、各地の標準品種よりも多い(図)。
- 6) 刈置きによる品質劣化の程度は「NiF8」と同程度である(データ省略)。

表. 「RK97-14」の育成地における特性概要

項目\系統名または品種名	RK97-14	NiF8	
発芽性	高	高	
萌芽性	やや低	中	
初期伸長性	強	中	
登熟性	早	中	
脱葉性	中	易	
分けつ性	やや弱	中	
黒穂病抵抗性	中	強	
さび病抵抗性	やや強	強	
風折抵抗性	中	強	
耐倒伏性	やや弱	中	
春植え	原料茎数(本/a)	650 (100)	652
	原料茎長(cm)	174 (123)	141
	原料茎径(cm)	2.5 (114)	2.2
	一茎重(g)	1025 (171)	599
	原料茎重(kg/a)	681 (175)	389
	甘蔗糖度(%)	15.2 (101)	15.1
	可製糖率(%)	14.3 (102)	14.0
株出し	原料茎数(本/a)	574 (78)	739
	原料茎長(cm)	186 (122)	153
	原料茎径(cm)	2.5 (125)	2.0
	一茎重(g)	1062 (178)	597
	原料茎重(kg/a)	627 (143)	439
	甘蔗糖度(%)	15.0 (99)	15.2
	可製糖率(%)	14.1 (99)	14.2
夏植え	原料茎数(本/a)	698 (98)	715
	原料茎長(cm)	292 (121)	242
	原料茎径(cm)	2.4 (109)	2.2
	一茎重(g)	1718 (143)	1203
	原料茎重(kg/a)	1245 (140)	891
	甘蔗糖度(%)	15.6 (101)	15.4
	可製糖率(%)	14.6 (102)	14.3

注1) 春植えは2004~2007年度および2009~2013年度(9作)、株出しと夏植えは2005~2008年度および2010~2013年度(8作)の平均値である。
注2) 括弧内の数値は、「NiF8」に対する百分率(%)を示す。

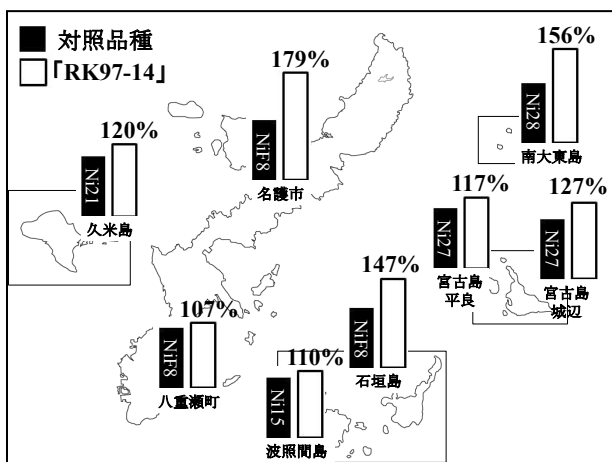


図. 「RK97-14」の現地試験における対照品種に対する可製糖量比 (3作型平均)